

# 高知港

## 高知県土木部港湾・海岸課

〒780-8570 高知市丸の内1-2-20

☎088-823-9883

URL : <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/175001>



## 1. 概況

### 〈沿革〉

高知港は土佐湾のほぼ中央にあり、瓢箪形をした浦戸湾を埋立て、龍の落とし子様をなした湾内水面積7km<sup>2</sup>を有し、湾口は西に月の名所桂浜、東に種崎の砂浜が延びて太平洋の荒波を遮る天然の良港であるが、欠点は湾口が湾曲して狭く、大潮時の引潮時には、1.4ノット、上潮時には、0.85ノットの潮流が生じることである。

高知港はその昔浦戸湾と呼ばれ、約380年前戦国大名長曾我部元親や、約300年前山内藩家老野中兼山等によって修築がなされた。

明治に入り船の大型化が進み阪神をはじめとする交易が一層盛んとなり、南四国最大の港湾として発展した。

大正10年、1,300トン級船舶の入港が可能となり、昭和初期には高知県の地下資源である石灰石を利用してセメント、また製鋼、繊維、製紙工場が興り、林産海産の加工業も発展した。

昭和2年第2種重要港湾、同13年には開港となり、港名を高知港と改めた。

終戦までに3,000トン級、昭和43年には5,000トン級が入港可能となり、同46年には5,000トン級フェリー、また同47年には1万トン級フェリー航路が開設された。

昭和63年、船舶の大型化や港湾に新たに要請される機能に対応するため、外洋に新港の建設を図ることとし、港湾区域が拡張された。平成10年には三里地区の一部供用を開始し、3万トン級が入港可能となるとともに、コンテナターミナルの整備も進め、中国・青島、韓国・釜山との定期コンテナ航路が開設された。

### 〈現況〉

高知港は人口34万人を有する高知市を中心とした中央広域生活圏を主たる背後圏とし港周辺にはセメント、造船、機械、化学、木材等の港湾関連企業が活動している。

公共岸壁としては水深-12.0m1バース、水深-8.0m1バース、水深-7.5m8バース、水深-6.5m~-4.5m17バースを有し、また港湾関連企業のほとんどは水深-5.0m~-7.5mのドルフィン有している。

地区別利用状況は孕地区のセメント、石灰専用、港町地区の鉱産品、ポートサービス、潮江地区の一般雑貨、鉱産品、若松地区の石油・金属、弘化台地区の金属、水産品、南吸江地区の鉱産品、タナスカ地区の石油、仁井田地区の鉱産品、

林産品、造船、藻州潟地区の船舶作業用機械、浦戸地区から御豊瀬、横浜地区は漁船の利用となっている。

### 〈計画〉

高知港は、土佐湾の中央部に位置し、古くから京阪神と南四国を結ぶ海上交通の要衝として機能してきており、昭和26年に重要港湾に指定されている。

本港は、我が国の鉄鋼産業に不可欠な良質の鉱産資源（石灰・蛇紋岩）の産地を背後に有し、その積出基地として、我が国における海上輸送網の拠点となり、国の利害に重大な関係有する港湾に位置づけられている。

高知新港（三里地区）については、船舶の大型化等物流の効率化に対応するため、昭和63年に整備に着工し、平成10年3月に一部供用を開始した。現在、3万GT級の大型貨物船によるバルク貨物の輸送が行われるとともに、国際定期コンテナ航路が2航路就航し、取扱貨物量は着実に増加している。また、平成26年5月に水深-12mと水深-11mが連続した2バースが供用され、バルク貨物の効率的な輸送が一層図られるとともに、大型外国クルーズ船の寄港に繋がっている。

本港の背後圏の中心である高知市は、高知県の政治、経済、文化活動の中心として重要な役割を果たしており、平成7年には輸入促進地域（FAZ）に指定され、高知新港周辺地域は、高知空港、四国横断自動車道等と連携した国際的な交易・交流拠点地域としての重要性が高まっている。

高知新港は、太平洋に面するという優れた立地条件を有するとともに、高速道路網などによる西日本地域との連携軸の要としての役割を果たし、高知県経済を支える国際物流・交流拠点へと発展することが期待されている。こうしたことから今後とも、新たな国際物流も視野におきながら、既存及び計画施設の一層の有効かつ高度利用に努めていくこととしている。

一方、浦戸湾内港は変化に富んだ水際線を有しており、この水際線を全国に誇ることでできるウォーターフロントとして、一層、市民に開かれた空間とすることが求められている。そのため、地域住民の主体的な参加により、防災対策や自然環境の保全に配慮しながら、人々が自然と共生し、交流が広がる水辺空間を形成することが必要となっている。

こうしたことを背景に、平成12年に改訂を行った高知港港湾計画では、高知新港は「高知県経済を支える国際物流・交流拠点」浦戸湾内港は「人々が自然と共生し、交流が広がる水辺空間」を高知港が目標とすべき将来像として掲げている。